

法人 第13期

2023.7

2024.6

# 桜ライン311 活動報告書

Sakura Line 311  
ANNUAL REPORT 2023



認定特定非営利活動法人 桜ライン311

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字大隅93-1

高田大隅つどいの丘商店街12号

0192-47-3399 (TEL) 0192-22-8989 (FAX)

info@sakura-line311.org <https://www.sakura-line311.org>

2011年10月、「私たちは悔しいんです。」という言葉のもと、仮設住宅の小さな集会所から始まった桜ライン311も、2024年7月1日をもって、法人として第14期を迎えることができました。組織を預かる立場として、継続の難しさを感じる場面も多々ありますが、皆さまのご支援のおかげで事業を続けられていることに、心より感謝申し上げます。

東日本大震災では、津波による被害が最も大きなものでした。この教訓を正しく「伝承」していくことが、次に大震災が発生した際にどれだけ多くの人命を守れるかにつながると考えています。

その為に私たちは「災害で生まれる悲しみを二度と繰り返さない未来を創る」というビジョンを掲げ、陸前高田市に避難の目印となる桜並木を作り、その意味を後世に伝えていく活動に取り組んでいます。

震災を経験していない人々にもこの活動に参加していただき、災害を「他人事」で

はなく「自分事」として捉えてもらうこと。これは、設立当初から変わらない私たちの願いであり、覚悟です。

まだ街に瓦礫が残るなか行っただけの植樹から、すでに13年が経ちました。この間に、植樹事業へは9,028名もの方々にご参加いただき、400箇所以上に2,252本の桜を植樹しました。目標としている17,000本にはまだ道のりがありますが、この過程において、多くの方々からの共感とご支援をいただけていることが、私たちの大きな原動力となっています。初期に植えた桜は成木となり、見事な花を咲かせるものもあります。私たちの願いもまた、皆さまの心の中で「減災」への意識として花開いていくものと信じています。

(減災：災害時において発生する被害を最小化するための取り組み)

さて、植樹事業ではコロナウイルスの影響で中断していた集合型の植樹会を、2023

年秋より再開いたしました。引き続き個別型の植樹も実施していますが、今後も多くの方にご参加いただけるよう活動を継続してまいります。また、植樹本数の増加と苗木の生育に伴う管理の必要性から、スタッフを増員し育成管理体制を強化しました。

そして、新たなファンドレイジング（資金調達）の取り組みとして、大阪マラソンへのチャリティパートナー（寄附先団体として選定）として参加し、2024年2月25日開催された大会に、岡本・太田の2名が出走しました。当市にお越しいただくことはもちろん重要ですが、各地での参加機会を創出するという私たちの考えが形になったものです。チャリティランナーとしては5名、沿道の応援ボランティアは51名の方にご参加いただき、初回としては大きな手応えを感じることができました。今後も大阪マラソンに続き、東京マラソンなどでも同様の取り組みを展開していく予定です。

組織面では認定NPO法人制度の「認定」更新時期を迎え、有効期限は2029年（令和11年）4月30日までとなりました。2018年以降の5年間の活動データをまとめ、審査を通すという大変な作業でしたが、無事に更新でき安堵しております。

また、2023年9月末をもって、当団体の事務局長である佐々木良麻が退職いたしました。在職中にお世話になった皆さまに深く御礼申し上げます。彼は2023年10月より陸前高田市議会議員として新たな道を歩んでおり、今後も皆さまの応援を賜れば幸いです。

14期もより多くの方に共感し参加していただける事業として、改善と進化を続けていきます。引き続きのご指導とご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

認定特定非営利活動法人 桜ライン311  
代表理事 岡本 翔馬  
役員・事務局一同

私たちは、悔しいんです。

2011年3月11日、東日本大震災が発生し、1時間以内に東北各地を津波が襲いました。

陸前高田市でも多くの方が時間を止めました。

その後、「実は、今回と同規模の津波が三陸沿岸を飲みこんだ記録や痕跡がありました。」との、ニュースが流れていました。

10mを超える津波の可能性が、震災前から声高に叫ばれていれば！

震災前の防潮堤には、限界があることを知らされていれば！

津波によって奪われた命は、もっと少なくて済んだのではないか？

その思いが、今も頭を巡ります。

私たちは、悔しいんです。

その思いを同じくする者が集まり、「桜ライン311」を立ち上げました。

次の時代が、この悔しさを繰り返すことのないように、今回の津波の到達点を桜の木でつなぎ、後世に伝えたいとおもいます。

現在、瓦礫撤去が進み、津波の到達点がほやけ始めている今、一日も早く、やりたいんです。

でも、私たちだけでは、限界があります。

皆さんの力を貸してください。お願いします。

(2011年10月)

## 事業報告 植樹事業

桜ライン311の三本柱の一つである植樹事業は、東日本大震災の津波の最高到達点へ桜を植え、後世に避難の目印を伝えることを目的としています。私たちは、桜をつなぐことは未来の命をつなぐことだと思っています。

植樹活動は、設立以来、毎年、春と秋の植樹会を基本に活動を継続してまいりました。今年度末時点で2,252本の桜の植樹が完了しています。これもひとえに地権者さまのご厚意と累計9,028名にも及ぶ参加者さまと活動を支えてくださる支援者さまのご協力のおかげです。

新型コロナ対策として見送っていた以前のような植樹会を、植樹会（集合型）と改め、また平日の受入れを可とした植樹会（個別型）と並行して実施しました。2019年秋以来の植樹会（集合型）は、秋52名・春30名にご参加いただきました。集合型は、セレモニーや植樹レクチャーしたのち見知らぬ参加者同士が一つのチームとして植樹を行うため、複数の団体の人をつなぐ場にもなっています。植樹会リピーターの方々は「お久しぶりです」などの挨拶が多く交わされていました。

秋植樹（集合型・個別型）では20箇所79本、春植樹（集合型・個別型）では7箇所53本を、760名のご協力のもと植樹しました。その中には、震災を後世に伝える役目を担う小中高生による学校植樹会も6回合まれ、事前に代表理事の岡本が講演を行い、私たちの活動の意義を伝えてから植樹を行っています。苗木の購入については、公益財団法人三菱UFJ環境財団さまの助成金の他、全国の皆さまから「苗木寄附」として苗木の購入費をご寄附いただきました。

長寿品種の桜は花がつくまでも年月がかかるため、初期に植樹した地権者さまから「花が咲かない」「花つきが悪い」というお声もあり、全箇所確認（※1）ではオオヤマザクラを中心に花つきを良くするための追肥作業を行いました。その甲斐あってか、開花を確認する本数が増えています。苗木が大きく成長していることもあり鹿による食害は減少傾向にあるものの、毛虫などによる食害は増加しており、害虫対策に注力しております。また、猛暑続きで、元気だった桜も数日で葉を枯らす現象が数本見受けられました。成長著しい桜の剪定作業にひと現場あたり2日かかることもあり、2,252本の桜のメンテナンスには大幅に時間を取られるようになりました。そのため新規植樹地確保や事務作業に支障が出ており、2024年1月頃から草刈りなどの現場作業に特化したパートスタッフを4人増員し対応しています。

桜周辺は苗木を痛めないよう、手刈り作業が必要となります。そのため夏には桜のお手入れ会を実施し、全国から219名にご参加いただきました。中には植樹会経験者も多く「桜の成長を間近に感じられて嬉しい」という声も聞かれました。

桜ライン311の活動は、桜を並べることが最終目的ではありません。三陸沿岸を繰り返し襲う津波による犠牲者をなくすこと。さらには、日本中で発生している自然災害による人的被害をなくすことが目的です。

そのためには、100年先も1000年先も「なぜ桜が並んでいるのか」が伝わるように活動を続けなくてはなりません。あの日、私たちが感じた悔しさを誰にも繰り返させないように地域の方、協力していただける方とともに歩み続けてまいります。

※1）全箇所確認とは

植樹した桜を1本1本、成長・開花・健康（病気・害虫・害獣）の状況を観察し、剪定・追肥や薬剤散布、支柱直しなど状況に応じたメンテナンス作業を実施しています。それにより害獣被害により苗木の消滅、病害虫や気候変動による枯れなどを発見し、再植樹などの計画をたてます。



01) 2023年11月秋の植樹会(撮影場所:高田町) 02) 地域住民と津波到達点の確認 03) 地権者さまと桜の開花状況を眺める  
04) 夏の桜のお手入れ会風景 05) 2023年秋の植樹会 集合写真

植樹会	2023年 11月 4日	秋の植樹会(集合型)	2024年 3月 9日	春の植樹会(集合型)
	11月 6日 ~ 11月 29日	秋の植樹会(個別型)	3月 16日 ~ 3月 29日	春の植樹会(個別型)
	12月 2日	理事植樹会	3月 30日	理事植樹会



### 学校植樹会一覧

- 2023年11月13日  
陸前高田市立高田小学校
- 11月21日  
新潟市立内野中学校
- 11月22日  
陸前高田市立小友小学校
- 11月27日  
陸前高田市立米崎小学校
- 11月29日  
陸前高田市立気仙小学校
- 2024年 3月18日  
岩手県立大東高等学校

※ 2024年4月末時点の植樹実績及び参加実績になります。

## 事業報告 普及啓発事業

「災害で生まれる悲しみを2度と繰り返さない未来を創る」

桜ライン311ではこのビジョンの達成を目指して、全国での講演のご依頼に対応しています。現地での体験に勝るものはありませんが、お住まいの地域で防災・減災を考えるきっかけとして、また当団体の活動を知ってもらおうきっかけとして、普及啓発事業は大切な柱の一つとなっています。

今年度においては、昨年を上回る57件のご依頼をいただき、講師を務めさせていただきました。23年11月には統計開始から通算で300回を超え、累計の来場者は28,000人を超えております。内容は防災/減災を軸として組織運営やNPOフォーラムなどジャンルも多岐にわたります。講演の機会をいただくことは当団体の活動への「支援」や「参加」の一つです。ご依頼いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

また次世代に震災を伝えていくため、市内外の小中高生との講演会+植樹会も例年の恒例行事として実施いただいております。学校関係者のご理解とご協力をととても心強く思っています。23年11月には新潟市立内野中学校さまの修学旅行において講演と植樹を行うなど、県外からのご参加もいただけるようになりました。

全国の皆さま、そして次世代に伝えていくことは災害の犠牲者を減らすことにつながっていくと信じて継続してまいります。

24年6月には、陸前高田市立高田第一中学校3学年71名を対象とした「郷土を守る〜わが町陸

前高田の未来」という総合的な学習のテーマに基づき、SDGs・防災の観点から、講演+草木染め講座をご依頼いただきました。初めての学校開催や大人数という懸念もありましたが、講師の「小さな草木染め工房 手染木芸(てらこう)」寺嶋康平さまと打ち合わせを重ね、実現することができました。

小学生のときに植樹経験をした生徒も多く、数年経ってまた違うかたちで桜に触れ、廃棄枝が素敵な作品に生まれ変わる。SDGsの取り組みとして、また当団体の桜が大切な地域資源である認識も深めてもらおうと、生徒主体で染料作りから行っていただきました。

日頃、廃棄される枝から「こんな綺麗な色が出るなんて!」と男女問わず喜びの声が聞こえてきました。担当の先生からは、「生徒にも草刈りや剪定など、季節ごとの手入れにも参加してほしい」とのお言葉をいただきました。

草木染めを通し改めて桜の意義を理解し、当団体の活動に関心を抱いた様子が講座後の感想文からも伺え、私たちにとっても感慨深い時間となりました。

石碑ではなく、桜を通じての震災伝承。

私たちの活動を通じて、陸前高田を愛し、生徒一人ひとりがこの地から、未来へ羽ばたいてほしいと願います。

最後になりますが、今年度においても緊急人道支援を目的とした募金活動を実施いたしました。2023年9月に発生した「2023年モロッコ地震」に際しお預かりした88,778円は、日本赤十字社を通して現地医療支援へ、2024年1月に発生した「令和6年能登半島地震」では、491,755円を石川県へ送金いたしました。当団体の緊急人道支援の募金活動に関わってくださったすべての皆さまに、改めて御礼を申し上げます。



### 草木染め講座

染料作り



1. 枝を細かく切る。
2. 枝を煮る。
3. 攪拌する。空気に触れさせる。鍋を移し替える。

模様づくり



4. 布に輪ゴムや割り箸、ビー玉など使い模様を作る。
5. 布を染料にいれる。
6. 水洗い。



7. 染料に入れる。
8. 輪ゴムや割り箸などを解きながら水洗い。
9. 乾いたら完成!

01) 02) 学校植樹会(陸前高田市立高田小学校、同市立米崎小学校) 03) 植樹前の事前講演(新潟市立内野中学校)  
04) 緊急募金活動 募金箱設置時に地元メディア取材 05) 緊急募金活動 募金箱設置

### 義援金募集

#### モロッコ大地震義援金募集

発 生	2023年 9月 8日
実施期間	2023年 9月19日 ~ 10月31日
募金総額	88,778円
送 金 先	日本赤十字社 「2023年モロッコ地震救援金」

#### 令和6年能登半島地震義援金

発 生	2024年 1月 1日
実施期間	2024年 1月 4日 ~ 3月 4日
募金総額	491,755円
送 金 先	石川県令和6年能登半島地震 災害義援金

#### 募金活動にご協力いただいた店舗一覧 (50音順、敬称略)

伊東文具店	軽食・喫茶 umineco	スナック みそら
おかし工房 木村屋	SAKE's BAR 酒場 THE 陸丸	中華食堂 熊谷
菓子司 東海堂	産直はまなす 陸前高田	一般社団法人 トナリノ
カフェレストラン クローバー	ジャズ喫茶 h. イマジン	井屋 さかぐち
カレーとてづくりおやつ フライパン	ジャズタイム ジョニー	夢の樹マルシェ
川の駅 産直よこた	旬味旬彩 鮭まつ田	陸前高田 発酵パーク CAMOCY
キャピタルホテル 1000 株式会社	昇龍厨房 四海楼	川原祭組
熊谷珈琲店	食堂カフェ 仙草園 × クレープ 仙草園	株式会社 島山林業

## 事業報告 政策提言事業

政策提言事業は桜並木を防災・減災だけでなく、桜をまちづくりの一部として活用してもらえるよう提言し、実施していくことを目的とした事業です。東日本大震災や津波、そして復興といった言葉ではないもので、陸前高田市を知り訪れる人が少しずつ増えてほしいと願っています。桜を育てていくなかで徐々に文化となり、桜と街と人が支えあうような未来を目指しています。

植樹事業とも連動していますが、陸前高田市など行政が管理保有する土地への植樹を継続的に行っています。今年度は27本の植樹を行い、行政所有地への植樹はのべ358本となりました。昨年度から開始した月命日を中心とした浄土寺のライトアップも継続的に行っています。24年3月から4月には開花や満開の新聞報道、ライトアップのTV中継があるなど、震災を伝えるものとしても季節を彩るものとしても認知を広げていきたいと思っています。浄土寺は民有地ではありますが、行政地においては上記のような取組みがしやすい特徴もあります。現時点ではまだ具体的な検討には早いですが、育成状況などを見ながら違う場所でもライトアップを行い、地域の皆さまにも愛してもらえる取組みへと広げていきたいと考えています。

今年度の新たな動きとして23年10月に陸前高田市において「さくらの杜プロジェクト陸前高田協議会」という団体が発足しました。東日本大震災だけに依らない観光/まちづくりを目的と

して、当市の関係事業者を中心とした取り組みです。市役所はもちろんとして関係行政機関と多くの市民、そして全国の支援者による参加を得ながら、東北随一の名所「さくらの杜」を作り、地域への誇りや愛着の醸成、交流人口の確保、当市の持続的発展を図ることを目的としています。

この活動を陸前高田市全体で推進していきたいとのことで、当団体も震災以降、桜を長く扱ってきた団体として、加盟をお受けすることになりました。その後24年3月には協議会を運営するためのNPO法人が設立となり、協議会の主要メンバーが理事/正会員となる中で、桜ライン311から代表理事の岡本が理事に就任しました。

同じ「桜」とはいえ趣旨が異なる部分もありますが、これまで植えてきた実績や育成管理のノウハウ・全体的な組織の戦略策定などについてお役に立てる部分もあると考えています。また、組織内にいることで桜ライン311との差別化などについても行いやすくなる部分があります。これから本格的に植樹等の計画策定に入る予定ですが、まずは品種の選定やその後の育成管理についてお手伝いさせていただく所存です。

震災の風化防止を目的とした伝承の面と多くの人が訪れたいと思えるようなまちづくりの面のバランスをとりながら、原点を忘れることなく貢献していきます。



01) 02) 地に愛される桜に成長(結婚写真や入学記念の撮影風景) 03) テレビ取材を受ける代表理事岡本  
04) ライトアップされた満開の桜 05) 「まちづくり」の1団体として協議に参加  
06) 07) 08) 「さくらの杜プロジェクト陸前高田協議会」として、初めての植樹会 市内の小中学校卒業生を中心に、市民とともに植樹

## 事務局報告

### 桜守として市民参加促進への道のり

植樹本数が2000本を超え、桜の管理業務(草刈、剪定、メンテナンス等)が年々増え、課題となっています。

今年度は長期的な桜の管理作業への市民参加を促すため、陸前高田市のまちづくり団体活動補助金を活用し「草木染め講座」を実施しました。

前年度も好評をいただいた企画ではありましたが、意図していた「桜守」を増やす為の取り組みに関して、体制が整わず課題が残りましたが、桜守と聞くと専門的な知識が必要なイメージや、参加へのハードルの高さを感じてしまうため、まずは当団体の活動に触れてもらうきっかけとして、草木染め用の枝の剪定体験を新たに盛り込みました。

「桜の剪定と草木染め」の体験を通して、より草木染めに親しむことができ、桜ラインの意

味や苦勞がよく分かったという声も多くいただきました。また、参加者同士の交流から新たなコミュニティが生まれ、参加者の満足度も高かった様子が伺えました。

桜守の足がかりとして5回の講座を実施し、市民を中心に延べ85名の方にご参加いただきました。

その中で7名の方が桜ライン311公式ライン「桜守」にご登録いただき、桜の写真(開花や病気など)を送ってくださったり、中には継続的に剪定を手伝いたい、という心強いお申し出もいただき、今後の活動へと繋げてまいります。

「強風で倒れた」「虫がついていて元気がない・・・」など地域住民からの声、早期発見で枯死を防ぐこともできます。そんな風に見守っていただける地域の桜守を増やし、津波到達点の桜が地域財産として愛される存在となるような活動を展開してまいります。



### パートタイムスタッフの雇用による植樹チーム基盤強化

桜の管理業務においては、以前からユニバーサル就労支援センターさまとの連携も行ってきましたが、年度中に全ての桜の管理を終えることが難しい状況が続いていました。

対策として24年初頭より、組織基盤強化を目的として桜の管理作業専従パートスタッフの採用を開始し、応募者には林業経験者もあり4名を雇用しました。ほとんどの方が刈払い機の使用経験があり、更には林業経験を活かした植樹現場の環境整備の質の向上が見込めるところです。複数人のパートスタッフの恒常的な運用は初めての経験です。専門性が必要な部分や、地権者さまとの交渉についてはフルタイムスタッ

フが担い、今後の管理作業についてはパートスタッフを中心に実施できるような体制作りが必要と考えています。

今回、特定非営利活動法人日本NPOセンターさまの東日本大震災現地NPO応援基金を利用し、パートスタッフの人材育成として作業スキル面だけではなく、NPOスタッフとしての心構えを視覚化、平準化、ビジョンの定着に向け、引き続き進めてまいります。

また管理者である担当スタッフのマネジメント力の強化、スキルの向上を目指し、外部講師からアドバイスをいただきながら、植樹チームの最終目的である、桜の管理を含めた環境整備を、来年以降3年を目処にすべて完了できるよう基盤強化を図っていきます。



# 事務局報告

## 大阪マラソン2024への取り組み

当団体の活動への参加方法のひとつとして、陸前高田市へ足を運んでいただき津波到達点に桜を植樹することがあります。しかし、講演などで西日本の支援者からは「陸前高田市に行く時間が無くて…」 「遠くて行くことができない」との声をいただくこともあり、陸前高田市に来れない方もお住まいの地域で活動に参加できる機会を作れないかと考え、2024年2月25日(日)に実施された大阪マラソン2024チャリティプログラムに初めて参加しました。陸前高田市に赴き「植樹」する支援から、関西圏で参加しやすい形でチャリティランナー(以下、ランナー)として「走り」や「寄附」でサポート、沿道で「応援」する3つの関わり方を設計するに至りました。

このプログラムは、ランナーが走ることで寄附を集め、当団体に寄附をする仕組みになっています。また大阪マラソン組織委員会からも寄附金が分配されます。ランナーを中心に支援の輪を広げていくことが目的です。委員会サイドからは目標寄附額7万円が設定され、個人の負担にならないよう当団体としてもランナー紹介・支援チラシの配布、SNSでの発信など注力しました。

当団体の活動に共感したランナー7名(代表理事岡本、スタッフ太田を含む。)が42.195kmに挑戦し、そのうち6名が完走しました。ランナーのご紹介をすると大阪府2名、兵庫県1名、東京都1名、岩手県3名、20代~60代と年齢層も幅広く出走してくださいました。

「桜ライン311応援団」と銘打ちコース沿道での応援者を募り、大阪府在住の方を中心に男女合わせて51名が、14か所に分かれて応援をしました。



## チャリティランナー制度の仕組み

### 大阪マラソン組織委員会

ランナー特設申込・割当

登録・エントリー

7万円以上の寄附が集まると出走権獲得

チャリティパートナー

チャリティランナー

寄附者

桜ライン311

寄附

応援・サポート

寄附

よびかけ

寄附

チャリティーランナー 7名  
(内、スタッフ 2人)  
応援団 51人  
合計 58人  
(内、西日本在住者 53人)

準備期間 6ヶ月  
寄附額 ¥1,626,708

大阪マラソン2024  
報告ページ



### 大阪マラソン2025詳細



ランナー同士の交流を目的に、2024年1月21日(大阪マラソンの1か月前)に大阪城公園にて練習会を実施し3名が参加、マラソンを始めるきっかけなど様々なことをお伺いでき親睦を深めることができました。そしてマラソン当日(25日)、大阪市は朝から雨が降り、気温も7℃という厳しいコンディションの中でスタートしました。「桜ライン311応援団」はピンクの揃いの半被に、手には竹バチを持って大声援をランナーに届けていました。(竹バチは、桜の植樹地のメンテナンスで伐採した竹を利用して作りました)応援団の半被はとても目立ち、他の沿道応援者や観光客にも声をかけられることもありました。大会前日には、EXPO会場のインテックス大阪にてブース出展などを行い団体の周知にはとても効果的でした。

参加者からは「活動にずっと参加したかったが、大阪マラソンをきっかけに参加することができて良かった。」「応援しながらも広報活動の一助になれたのは望外の喜びです。」といった感想をいただきました。一方で課題も多く残り、当日のランナーの管理や、応援団へのランナーの目印の共有不足による発見の遅れなどがありました。初めての試みで気づけなかった部分を、ランナーと応援団から多くのご指摘やご意見をいただいたことで、参加者との距離感も一層近く感じられました。いただいた反省点を活かし、大阪マラソン2025に向け準備を進めてまいります。

最後になりましたが、大阪マラソン2024にてご支援ご協力いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。



## 毎月定額寄附制度 マンスリーサポーター

桜ライン311では、“桜の育て親”になってくれる方を募集しています。

マンスリーサポーターは、クレジットカードを使った寄附制度です。毎月、自分で決めた金額が自動で引き落とされるシステムのため、簡単に継続的な寄附ができるようになっています。

サポーターの方には、サポーター限定の桜ライン311ニュースレター（年2回）と、活動報告書（年1回）をお届けしています。変わりゆく陸前高田のまちと、桜ライン311の活動が身近に感じられる、情報満載の内容です。

また、特典としてあなただけのオリジナル会員証を発行しています。

1日 **100円** で  
できること  
(3,000円/月)



桜の苗木1本(3mサイズ)を植樹し、1年間守ることができます。

1日 **200円** で  
できること  
(6,000円/月)



学校植樹会を1回開催することができます。(3本植樹の場合) ※金額は任意での設定も可能です。

お手続きはインターネットからとなります

<https://www.sakura-line311.org/supporter>

- いただいたご寄附は上記内容だけでなく、苗木育成管理などの植樹事業や、講演を含む普及・啓発事業など、団体の事業運営のために使用いたします。
- 認定NPO法人制度に伴い、マンスリーサポーターは税控除の対象となります。(最大50%の減税対象)ご寄附の領収書は、毎年1月、前年の1月から12月までの期間を対象としてまとめ、年1回発行いたします。
- マンスリーサポーターの方のみ、個人のお名前を年間の活動報告書に掲載させていただきます。(希望者のみ)
- 一般のご寄附は、口座振込等にて承っております。詳しくはHPをご覧ください、事務局までお問い合わせください。

## マンスリーサポーター

皆さまのあたたかい支えがあり第12期も活動を継続することができました。心より感謝申し上げます。

- |                |                              |              |                |
|----------------|------------------------------|--------------|----------------|
| ・佐々木 信秋        | ・岩田 達明                       | ・かどさか        | ・福岡 千代子        |
| ・橋本 由香         | ・吉原 隆成                       | ・小原 仁        | ・西和賀町立沢内中学校    |
| ・矢口 悦子         | ・天田 輔                        | ・竹嶋 美紀       | ・細田 伸之助        |
| ・藤本 大祐         | ・北村 規子                       | ・山神 孝志       | ・土山 隆宏・明代      |
| ・金澤 正浩         | ・内藤 宏章                       | ・近藤 栄(さくらFM) | ・(株)タイム缶詰 吉田和生 |
| ・及川 登美江        | ・阪上 浩                        | ・岩崎 亘典       | ・石黒 裕次郎        |
| ・森川 千恵         | ・榊原 由紀子                      | ・白田 佳子       | ・堀崎 薫          |
| ・鈴木 正子         | ・木村鉄筋工業 株式会社                 | ・平出 眞        | ・竹松 友子         |
| ・安曇野ケロリン       | ・信昭田加                        | ・須賀 信平       | ・梅原 昌宏         |
| ・小針 光雄         | ・株式会社 麵食<br>代表取締役社長 中原誠      | ・小山 賢太郎      | ・クシマ モモヨ       |
| ・笹野 絹代         | ・kazue omoto                 | ・堀崎 薫        | ・永山 恵子         |
| ・鈴木 佐知子        | ・浅葉 正美                       | ・篠宮 武        | ・山崎 哲哉         |
| ・MAKIKO ASAOKA | ・石川 洋一                       | ・今井 洋祐       | ・後藤 良平         |
| ・岩崎 政孝         | ・鈴木自動車 株式会社                  | ・下郷 悟        | ・岡田 良寛(りょうかん)  |
| ・原田 亮          | ・音楽室さくら咲 la                  | ・やっさん        | ・生方 由紀子        |
| ・山本 清美         | ・水澤 千秋                       | ・佐々木 雄太      | ・五味 潤 一彦       |
| ・金光 結香         | ・太田 海                        | ・廣野 孝男       | ・山崎 耕太郎        |
| ・尾島 奈緒子        | ・塩田 哲男                       | ・篠原 知子       |                |
| ・原田 聡子         | ・横山 秀                        | ・東 眞弓        |                |
| ・齊藤 宏樹         | ・小高 英雄                       | ・武田 美代子      |                |
| ・三谷 麻紀         | ・株式会社 けいろん<br>代表取締役社長 長谷部蔵之進 | ・福田 美知子      |                |
| ・荒川 夏実         | ・和賀 彩子                       | ・山科 威朗       |                |
| ・高石 祐次         |                              | ・柳澤 浩子       |                |
| ・真下 行男         |                              | ・中村 颯子       |                |

※ 順不同、敬称略。

※ 第13期(2023/7/1 ~ 2024/6/30)に、任意でご支援いただいた方を掲載しています。未掲載の方で、来期の掲載をご希望の方は、メールにてご連絡ください。



株式会社麵食  
代表取締役社長 中原 誠 様

私達のお店では福島県喜多方市にルーツがある喜多方ラーメンを提供しています。震災後、東北各地で炊出しをさせていただきました。仮設住宅から人がいなくなり、私達にできることは終わったように感じていたところ、桜ライン311の活動を知りました。震災の被害を風化させず、東北がより元気になることを願って参加しています。



石川県  
岩田 和子 様

東日本大震災の6年後から数年間、四季ごとに陸前高田市へボランティアに伺い、私の大好きな第2の故郷と勝手に思っております。知人より桜ライン311の素晴らしい活動を紹介され、陸前高田市との絆をいただきとても嬉しいです。能登への温かい応援に心から感謝し、私も微力ですがずっと桜ライン311を応援させていただきます。

## 支援者さまからの声

活動を支えてくださる皆さま



陸前高田市長  
佐々木 拓 様

小学生だった頃、通学路の石段の最上段には「地震があったら津波の用心」という石碑があったのを覚えています。「桜ライン」、東日本大震災の記憶を後世の人に伝えていく、陸前高田にとって、とても大切なプロジェクトです。



名古屋市 防災危機管理局長  
酒井 雄一 様

桜ライン311の皆様が、震災の記憶と教訓を伝えるために桜の植樹を始めとした活動に取り組んでおられることに敬意を表します。「行政丸ごと支援」をご縁として名古屋市と陸前高田市が友好都市協定を締結してから、今年度で10年の節目を迎えました。これからも両市が絆と交流を深め、益々発展していくことを願っています。



株式会社 ONE COMPATH  
代表取締役社長 CEO 早川 礼 様

桜ライン311の活動で植樹された桜の場所などを地図上にマッピングする「桜ライン311応援マップ」の運営を通じて、震災の記憶を未来へ繋ぐ活動を続けています。毎回桜の数が増えるたびに、皆様のご尽力を感じるとともに、活動の意義を再確認しております。今後も微力ながらも引き続き支援を行ってまいります。



Diptyque Japan 株式会社 様

ディプティックは責任ある企業として、地域社会への貢献を目指しています。2023年に桜の限定キャンドルを発売した際「桜ライン311」の活動を知り、製品の売上一部を寄付する形で取り組みを開始しました。また社員の社会貢献活動としても植樹にも参加させて頂き、今後もより幅広く活動のサポートをさせて頂ければ幸いです。



武田薬品工業株式会社  
小針 昭人 様

震災の記憶を後世に伝える植樹活動に参加させていただいたことに加え、桜ライン311様を講師としてお招きし家族と社員を守るための防災・減災の研修を実施しました。その学びを家族や仲間と話をすることで、確実に身を守る行動を考えるようになりました。桜の花が咲くようにこの経験が全国の社員に広がっています。



リコー社会貢献クラブ・FreeWill  
藤谷様 池田様 植松様 木下様 菅原様

リコー社会貢献クラブ・FreeWillは、10年間で桜ライン311植樹会に19回、延べ348名が参加し、震災を知り、復興を肌で感じてきました。これからも桜の成長を見守りながら、伴走者として寄り添って行きたいと思えます。



市民生活協同組合 ならコープ  
理事長 吉田 由香 様

17000本の桜並木が、津波の恐れがあるときにはその並木より上に避難するよう伝え続け、津波という災害の記憶を未来に繋ぐ「桜ライン311」の活動に賛同し、運営資金の寄付だけではなく植樹活動にも参加してきました。いつの日か、17000本の桜が多くの花を咲かせてくれる光景を思い浮かべながら、被災地を忘れない支援を継続してまいります。



島崎株式会社 (Fleep) 様

Fleepは肌に優しい下着のブランドとして、(株)シェリール陸前高田工場を中心に生産をしております。我々も震災を経験し、その後の震災の風化を感じる中で、桜ライン311の皆様「震災の記憶を後世に伝えるための活動」に感銘を受け、少しでもお役に立てればと思っております。今後も微力ですが支援を続けて参ります。



キャピタルホテル1000 株式会社  
代表取締役社長 松田 修一 様

貴法人が掲げる「災害で生まれる悲しみを2度と繰り返さない未来を創る」とのビジョンに心から共感いたします。震災後間もない2011年11月、1本目の苗が植えられて以来今も変わらず地道な活動を続けられ、多くの方々の手を通じて植えられた苗が桜ラインとして着実に延伸していることに喜びを感じております。今後も微力ながら応援いたします。



ブレーメンホームベーカリー 様

京都にて家族で営む小さなパン屋です。被災地への募金活動をしている中で「桜ライン311」様の活動を知り、活動されているスタッフのみなさんでパンを食べて元気になってもらえたらと2014年から京都からパンを届けるという形で支援させていただいております。今後も関西の地から微力ながら応援いたします。



新潟市立内野中学校  
校長 佐藤 靖子 様

2013年「私たちは悔しいんです」このリーフレットの言葉に出会い、風化させてはいけないと思いました。当校は2023年11月、修学旅行で桜植樹をさせていただきました。生徒は「この高さまで津波が来た実感しました。災害への備えをしっかりとりたい。」と感想を述べていました。これからも日本海側から応援し続けます。



桜ライン311in 絆 様

名古屋の和太鼓チームと2014年から桜ライン311への支援コンサートを行っています。10回の節目に今年は絆メンバーと陸前高田を訪れ、満開の桜ラインの下に集うことができました。この温かい交流を通じて強い絆が生まれ、また1本の植樹をする厳しさも学びました。16チーム 200名以上の仲間と、陸前高田と名古屋の絆をさらに深めていきます。



陸前高田市立高田第一中学校  
3学年主任 伊藤 美佐江 様

今年度3年生は、桜ライン311岡本代表様から防災講話を、寺嶋様を講師に桜の剪定枝で桜染めを体験させていただきました。テーマは「防災・SDGs・伝承」。桜の植樹の意味と思いを確認しました。そして、桜の枝が彩る桜色の作品に感動を覚えました。「陸前高田のこれから」を人々の心で繋げる機会となり、感謝いたします。



梶田 裕磨 様

初めて植樹地を訪れた時の悔しさ、昨日のこのように思い出します。それ以来植樹会への参加だけでなく、防災・減災の考えに共感し地元の防災講座などにも積極参加するようになりました。震災の教訓を誰もが自分事として考えられる世界になるよう、微力ですが今後も桜ライン311の活動を通して考え行動していきたいです。



垣田 清隆 様

桜ラインとの繋がりは、当時の副代表佐藤様とコンタクト取った2014年6月18日。そこからは、苗木の寄付を3年おきに、チャリボンや、大阪チャリティマラソンと関わりを持たせて頂きました。当方が退職し妻も来年には退職となりますので、植樹しに行きたいと考えています。これからも、可能な限り応援続けて行きたいと思えます。

## 支援者さまからの声

地元で活動を支えてくださる皆さま  
地権者の皆さま



米崎町 地元参加者・地権者  
佐々木 しづ子 様

草木染め講座に、娘と孫と3人で参加しました。地元を離れている娘は、桜ライン311の活動を通して、関東の地でも防災を意識し、桜ライン311の活動を伝えると言っています。震災を知らない孫には、命の尊さも伝えていきたいと思います。応援してます、桜ライン311!



小友町 地元参加者  
高綱 博之 様

震災後東北各地へボランティアや復興イベントに参加させていただき、この陸前高田が大好きになり今年千葉県より移住して参りました。桜の植樹だけでなく剪定 & 桜染めなどのイベントも、桜ラインさんの素敵な活動です。いつまでもこの活動を続けていくことが、いつかたくさんの命が救われ、この地でお役に立てること、それが私の幸せです。



気仙沼市 地権者  
菅野 勝郎 様

東日本大震災の時避難した成田山。成田山の桜を何十回写真に収めた事だろう。昨年一部の古木が伐採された。桜ライン311のボランティアの39名の皆さんが、はるばる遠方からお出でいただき、みぞれ降る悪天候にもかかわらず、成田山の裏側に植樹された。縁なのだろうか。活動に敬意を払い、今後は植樹された桜の成長をもカメラに収めに足を運ぶのかも知れない。



米崎町 地権者  
熊谷 政澄 様

震災の翌年、四季桜2本を植えていただきました。今年は5m以上の大木に育ち、春、秋に花を咲かせます。秋には岩手日報、東海新報に数回掲載され、市内、遠くは盛岡、一関等の方々が見に来られ「この時期にこんな見事な桜の花は見たことがない」とびっくりし、喜んで帰って行かれます。これからも陸前高田に桜の花がいっぱい咲くように頑張ってお役に広めるようお願いします。



小友町 地権者  
遠藤 健司 様

震災から13年が過ぎ街並みもどんどん変わってきました。昔の風景を思い出すことが難しい時もありますが、桜は「ここより上に避難するんだ」という防災意識を再認識する目印となっています。私の土地は、土壌が悪く何度も桜が枯れてしまいましたが、スタッフの皆さんの献身的なご努力によってやっと根付いてきました。17,000本の桜が見守る優しい街ができることを楽しみにしています。

### 新聞

- 2023年 9月 6日 読売新聞社
- 9月26日 朝日新聞社
- 11月 5日 東海新報社
- 11月 7日 岩手日報社
- 12月 5日 岩手日報社
- 12月10日 東海新報社
- 12月18日 日本教育新聞社
- 12月21日 新潟日報社
- 2024年 1月 1日 東海新報社
- 1月 6日 東海新報社
- 1月11日 北國新聞社
- 2月20日 東海新報社
- 3月 1日 朝日新聞社
- 3月 9日 京都新聞社
- 3月 9日 北海道新聞社
- 3月10日 静岡新聞社
- 3月10日 読売新聞社
- 3月11日 河北新報社
- 3月11日 東海新報社
- 3月11日 岩手日報社
- 4月 6日 岩手日報社
- 4月 9日 東海新報社
- 4月11日 東海新報社
- 4月12日 東海新報社
- 6月 5日 東海新報社
- 6月 6日 岩手日報社

### ラジオ

- 2024年 3月10日 東京FM放送株式会社
- 3月10日 株式会社エフエム岩手
- 3月14日 きたかみE&Beエフエム

### テレビ

- 2023年 11月11日 テレビ岩手
- 2024年 1月 5日 IBC岩手放送
- 3月 4日 IBC岩手放送
- 3月 9日 岩手朝日テレビ
- 3月11日 東京メトロポリタンテレビジョン
- 3月25日 IBC岩手放送
- 3月27日 岩手めんこいテレビ
- 4月 5日 岩手朝日テレビ
- 4月 6日 岩手朝日テレビ

### 会報誌

- 2023年 7月24日 生活協同組合おおさかバルコープ
- 9月 1日 新聞通信調査会
- 9月22日 瀬戸まちの活動センター
- 12月 6日 陸前高田市役所
- 12月25日 株式会社ファー・イースト・クラブ
- 2024年 1月25日 株式会社ファー・イースト・クラブ
- 2月27日 生活協同組合おおさかバルコープ
- 3月21日 陸前高田市役所
- 3月28日 認定特定非営利活動法人 日本NPOセンター
- 5月31日 陸前高田市立高田第一中学校

### wcb

- 2023年 7月13日 東品貿易株式会社
- 11月20日 株式会社5score
- 12月26日 復興庁
- 2024年 1月31日 認定特定非営利活動法人 日本NPOセンター
- 3月10日 LINEヤフー株式会社
- 3月10日 一般社団法人日本地域色協会
- 3月11日 JAMMIN

### 雑誌・その他

- 2023年 12月26日 復興庁「岩手・宮城・福島産業復興例集2023-2024」
- 2024年 2月25日 川口印刷工業株式会社「rakra 北東北の楽しい暮らしを提案するエリアマガジン3-4号」
- 3月22日 一般社団法人トナリノ「地域を言葉で掘り起こし、魅力を届ける」
- 4月 1日 東京書籍株式会社「新しい理科6」

# 年間活動実績

2023年7月1日～2024年6月30日

- 講演 花巻市立南城中学校 震災復興陸前高田視察
- 活動 株式会社バリューブックス チャリボン「創業16周年記念キャンペーン ほんのひととき」(7/6-7/31)
- 活動 小田和正ツアー2023 岩手公演 東北さくらライブプロジェクト主催によるブース出展(2日間)
- 活動 株式会社ONE COMPATH「桜ライン311プロジェクト応援マップ」更新
- 活動 株式会社エンパワー「買取大吉モノ募金」開始
- 活動 Yahoo!ネット募金×ズバトク企画「クレジットカード寄付でPayPayポイント最大300円相当をプレゼント!」
- 講演 瀬戸まちの活動センター主催「楽しく学ぶ防災あれこれ講座について」(オンライン) (7/20-8/31)

- 活動 陸前高田市立高田第一中学校 職場体験受け入れ(2日間)
- 活動 桜のお手入れ会 募集終了

- 講演 学校法人関西大学 院生研究 講演会 活動 福活会主催 福山フードフェスタ ブース出展
- 講演 学校法人東洋大学「学校と地域連携による防災教育」
- 講演 新潟市立内野中学校 修学旅行事前講演会(オンライン)
- 活動 モロッコ大地震義援金 開始

- 講演 学校法人白百合学園 盛岡白百合学園小学校 修学旅行事前学習(オンライン)
- 活動 株式会社バリューブックス チャリボン「7億円突破御礼キャンペーン」(9/20-9/26)
- 活動 大阪マラソン2024 チャリティランナー募集(9/26-11/26)
- 講演 学校法人白百合学園 盛岡白百合学園小学校 学習旅行
- 講演 名城大学 経営学部・経済学部主催「起業講座 共感型非営利事業NPOメソッド」
- 講演 豊田市立小原中学校 復興学習

- 講演 モナミの会 講演会
- 講演 学校法人郁文館夢学園ID学園高等学校「PBL研修ツアー」
- 講演 岩手県立住田高等学校「地域創造学」
- 活動 株式会社バリューブックス チャリボン「読書の秋キャンペーン」(10/25-10/31)
- 講演 第5回桜の草木染め講座 活動 モロッコ大地震義援金 終了

- 講演 秋の植樹会(集合型) 開催
- 講演 陸前高田市立図書館主催 防災フェスタ「震災からの歩み～今できる防災・減災の取組について」
- 講演 秋の植樹会(個別型) 開始(11/6-11/30) 講演 特定非営利活動法人育桜会 植樹会事前講演会
- 講演 名古屋市民交流団 陸前高田視察
- 講演 いわて遺贈寄付推進検討委員会主催「地域のための遺贈寄付セミナー」
- 講演 UAゼンセン 震災復興講演会 講演 国立大学法人大阪教育大学FILM 震災学習(オンライン)
- 活動 モロッコ大地震義援金 送金 講演 連合広島島島地域協議会 東日本大震災学習会

- 講演 陸前高田市立高田小学校 震災復興学習+学校植樹会
- 講演 陸前高田市立米崎小学校 植樹会事前講演会
- 講演 生活協同組合おおさかバルコブ 震災復興講演会
- 講演 Diptyque Japan株式会社 株式会社麺食 生活協同組合おおさかバルコブ 合同開催 震災復興学習
- 講演 Diptyque Japan株式会社「防災減災ワークショップ」
- 講演 第6回桜の草木染め講座 講演 陸前高田市立小友小学校 植樹会事前講演会
- 講演 新潟市立内野中学校 東北修学旅行桜プロジェクト(講演会+植樹会)
- 講演 陸前高田市立小友小学校 学校植樹会

- 講演 一般社団法人トナリノ「ライティング講座」(オンライン)
- 講演 陸前高田市立米崎小学校 学校植樹会 講演 陸前高田市立気仙小学校 植樹会事前講演会
- 講演 国際基督教大学大学院 植樹会事前講演会 講演 武田薬品工業株式会社「防災減災危機管理」



12

- 講演 日本NPOセンター主催 NPO法25周年記念フォーラム「未来の市民社会をともに描こう」
- 講演 陸前高田市立気仙小学校 学校植樹会
- 活動 株式会社バリューブックス チャリボン「寄付月間12月キャンペーン」(12/1-12/31)
- 講演 理事植樹会 講演 一関市立大原小学校 震災復興学習
- 講演 岩手県立大槌高等学校 SIMおおつちラーニングジャーニー
- 講演 第7回桜の草木染め講座
- 活動 大阪マラソン2024「桜ライン311チャリティランナー応援団」募集開始(12/26-1/25)

2024

7

- 活動 株式会社バリューブックス チャリボン「2024初寄付キャンペーン」(1/1-1/9)
- 活動 令和6年能登半島地震義援金 開始
- 活動 大阪マラソン2024 チャリティランナー練習会開催
- 講演 市民生活協同組合ならコープ「あすなら塾」 講演 第8回桜の草木染め講座

2

- 講演 株式会社リコー「17,000本の桜に託す願い」(オンライン)
- 講演 特定非営利活動法人Future Seeds「フリースペースたきざわスポラ 講義」
- 活動 令和6年能登半島地震義援金 送金(1回目) 講演 第9回桜の草木染め講座
- 活動 Diptyque Japan株式会社「限定版 クラシックキャンドル Fleur de Cerisier」販売(期間限定)
- 活動 大阪マラソン2024EXPO ブース出展(2日間)
- 活動 大阪マラソン2024 チャリティパートナーとして参加

3

- 活動 株式会社バリューブックス チャリボン「寄付してみよう。Let's try a donation」(3/1-3/31)
- 活動 令和6年能登半島地震義援金 終了
- 活動 日清丸紅飼料株式会社「ハーブ豚×桜ライン311 東北に桜を」販売(約1ヶ月間)
- 活動 有限会社ソラ「桜並木を繋げるドネーションネックレス」販売
- 講演 春の植樹会(集合型) 開催
- 活動 JAMMIN合同会社 チャリティーグッズ 販売(3/11-3/17)
- 活動 令和6年能登半島地震義援金 送金(2回目)
- 活動 YUKI Fes実行委員会主催「音あかり音楽で心にともしびを」ブース出展
- 講演 春の植樹会(個別型) 開始(3/16-3/29) 講演 岩手県立大東高等学校 講演会+学校植樹会
- 講演 生活協同組合おおさかバルコブ「桜ライン311活動報告会」
- 講演 UAゼンセン 震災復興講演会
- 講演 リコー社会貢献クラブ・FreeWill「～大震災・被災地に学ぶそして応援する～桜ライン311の植樹会へ参加を通じて被災地の理解と将来の自然災害を学ぶ」

4

- 活動 株式会社ONE COMPATH「桜ライン311プロジェクト応援マップ」更新
- 講演 名古屋市民会 ガーデニングクラブ「防災・減災・避難所運営について考える」
- 講演 株式会社麺食 東日本大震災学習会 講演 理事植樹会
- 活動 浄土寺(高田町)の桜 満開ライトアップ実施(3日間)
- 講演 桜ライン311in絆 現地視察
- 活動 株式会社ONE COMPATH「桜ライン311プロジェクト応援マップ」更新

5

- 講演 UAゼンセン 活動報告会 講演 国立大学法人 岩手大学「地域おこし論」
- 講演 陸前高田市立高田第一中学校「震災学習とSDGs」
- 講演 公立大学法人 岩手県立大学「地域社会とボランティア」桜のお手入れ会実施
- 講演 学校法人郁文館夢学園 郁文館高等学校「PBL研修ツアー」

6

- 活動 株式会社バリューブックス チャリボン「梅雨なので Rainy Season Campaign2024」(6/1-6/30)
- 活動 桜のお手入れ会 開始 講演 陸前高田市立高田第一中学校 SDGs桜の草木染め講座
- 講演 花巻市立太田小学校 修学旅行 現地視察
- 講演 全日本ロータス同友会「東北ブロック大会記念事業」



## 支援者法人及び団体

- ・AMAZAKE STAND 陸前高田製造所
- ・市川若宮道院
- ・一関市立大原小学校
- ・一般財団法人 日本老人福祉財団
- ・一般社団法人 マルゴト陸前高田
- ・一般社団法人 トナリノ
- ・一般社団法人 日本地域色協会
- ・一般社団法人 プロトレ
- ・一般社団法人 陸前高田市観光物産協会
- ・岩手県立大槌高等学校
- ・岩手県立住田高等学校
- ・岩手県立大東高等学校
- 情報ビジネス科 DjoB
- ・岩手県立盛岡第二高等学校
- ・いわて結っこ盛岡
- ・宇田森
- ・エイブルFC小牧店 株式会社アルヴェスタ
- ・A.cafe
- ・愛媛県立今治北高等学校 家庭クラブ
- ・FJK会
- ・FJホールディングス株式会社
- ・エレピスタ株式会社
- ・大倉山うたごえサロン
- ・大阪教育大学 FILM
- ・大阪マラソン2024
- ・大阪よどがわ市民生活協同組合
- ・おかし工房 木村屋
- ・おかず屋 和笑輪
- ・大人のための絵本会@桑名
- ・お花見茶会 有志一同
- ・音楽室さくら咲la
- ・株式会社リコー
- ・菓子司 東海堂
- ・学校法人 東洋大学
- ・学校法人 郁文館夢学園 ID学園高等学校
- ・学校法人 郁文館夢学園 郁文館高等学校
- ・学校法人 追手門学院大学 社会福祉部
- ・学校法人 関西大学
- ・学校法人 白百合学園 盛岡白百合学園  
小学校

- ・カフェフードパーわいわい
- ・Cafeレストラン クローバー
- ・株式会社 アイ・ディ・ケイ
- ・株式会社 イベント21
- ・株式会社 イベント21 神奈川支店
- ・株式会社 いわ井
- ・株式会社 エクロール
- ・株式会社 edu edge
- ・株式会社 エルベ・プランズ
- ・株式会社 カルミア
- ・株式会社 かんば生命山形支店
- ・株式会社 グリーバル
- ・株式会社 シーズンズ
- ・株式会社 シェリール
- ・株式会社 STYZ
- ・株式会社 セントラル工業
- ・株式会社 高田松原(道の駅 高田松原)
- ・株式会社 テレビ岩手
- ・株式会社 ナガイホシ
- ・株式会社 島山林業
- ・株式会社 バリューブックス
- ・株式会社 ファー・イースト・クラブ
- ・株式会社 富士住建
- ・株式会社 ミチノク
- ・株式会社 麵食
- ・株式会社 山十 伊東文具店
- ・株式会社 読売新聞社
- ・株式会社 ONE COMPATH
- ・株式会社 ワンチーム
- ・KAMIKIRISALON ひみつきち
- ・カレーとてづくりおやつフライパン
- ・川の駅 産直よこた
- ・川原祭組
- ・菅久菓子店
- ・顔晴っぺ!とうほく元気プロジェクト
- ・喜多方ラーメン坂内 調布店
- ・岐阜市立岐北中学校
- ・木村鉄筋工業 株式会社
- ・キャピタルホテル1000 株式会社

- ・gooddo 株式会社
- ・熊谷珈琲店
- ・軽食喫茶 umineco
- ・KD Mart 十日市場店
- ・公益財団法人 JKA
- ・公益財団法人 三菱 UFJ環境財団
- ・公益社団法人 国土緑化推進機構  
緑の募金
- ・公立大学法人 岩手県立大学
- ・国際基督教大学(ICU) 大学院
- ・国立大学法人 岩手大学
- ・此花地区保護司会
- ・坂部健康院
- ・さくら PORT・TOWN 株式会社
- ・桜ライン311in絆
- ・SAKE'S BAR 酒場 THE 陸丸
- ・SAZAIE 株式会社
- ・サロンドロワイヤル タカタ本店
- ・産直センターリふる
- ・産直はまなす 陸前高田
- ・鳥崎 株式会社
- ・市民生活協同組合 ならコープ
- ・社会福祉法人 中日新聞社会事業団  
東日本復興支援事業
- ・社会福祉法人 松田町社会福祉協議会
- ・社会福祉法人 西和賀町社会福祉協議会
- ・ジャズ喫茶 h.イマジン
- ・ジャズタイムジョニー
- ・宗教法人 天理教 藤ノ上分教会
- ・旬味旬彩 鮎まつ田
- ・笑倍道一座
- ・昇龍厨房 四海楼
- ・食堂カフェ仙華園 × クレープ仙華園
- ・白藤野菜直売所
- ・伸栄商事 株式会社
- ・シンワ 株式会社
- ・スナック みそら
- ・Sports Dining Bar DIVA
- ・生活協同組合 おおさかバルコープ
- ・瀬戸まちの活動センター

皆さまのあたたかい支えがあり第13期も活動を継続することができました。心より感謝申し上げます。

- ・セブンイレブン 陸前高田竹駒町店
- ・セブンイレブン 陸前高田馬場前店
- ・全トヨタ販売労働組合連合会
- ・全日本ロータス同友会
- ・TAKATA-FESTA
- ・高田松原商業開発協同組合  
(アパッセたかた)
- ・武田薬品工業 株式会社
- ・竹ノ輪「キモノ里親さがし」
- ・立樹
- ・小さな草木染め工房 手楽木芸
- ・チームはしごや
- ・中華食堂 熊谷
- ・中部電力 株式会社
- ・中部リサイクル運動市民の会
- ・Diptyque Japan 株式会社
- ・伝馬・おたがいさま
- ・東亜建設工業 株式会社 東北支店
- ・東京センチュリー 株式会社 有志一同
- ・遠野市遠野町第15区自治会民生防災部
- ・特定非営利活動法人 育桜会
- ・特定非営利活動法人 日本全国志士協義会
- ・特定非営利活動法人 Future Seeds
- ・特定非営利活動法人 KIプロジェクト
- ・特定非営利活動法人 りくカフェ
- ・豊田市立小原中学校
- ・トヨタモビリティパーツ 株式会社  
北東北統括支社
- ・トリオシステムプランズ 株式会社
- ・トレンドマイクロ 株式会社
- ・井屋 さかくち
- ・なかまち「絆」の会
- ・名古屋市会ガーデニングクラブ
- ・名古屋市役所
- ・新潟交通 株式会社
- ・新潟さくら倶楽部
- ・新潟市立内野中学校
- ・西和賀町立沢内中学校
- ・日清丸紅調味料 株式会社
- ・ニュートンワークス 株式会社

- ・認定特定非営利活動法人  
日本 NPOセンター
- ・認定特定非営利活動法人  
中部リサイクル運動市民の会
- ・はちどりのひとしずく
- ・花と緑のまち三鷹創造協会  
花壇ボランティア
- ・花巻市立太田小学校 児童会
- ・花巻市立南域中学校
- ・原 辰
- ・東日本大震災伝承館いわて  
TSUNAMIメモリアル  
コンサート
- ・東日本大震災被災地復興支援おうえん  
コンサート
- ・東村山市小彼岸桜の会
- ・被災地オテガミプロジェクト
- ・ヒューマン RG
- ・広眺ヶ丘サロン・三々五々
- ・福井県民生活協同組合
- ・福井市ボランティア連絡協議会
- ・福山フードフェスタ
- ・Book-aid
- ・BLUE PALETTE実行委員会
- ・フルまるリフォーム
- ・プレーメンホームベーカーリー
- ・PECHKA Cafe&Library
- ・ペンション福田
- ・ほのぼのサロン
- ・ボランティアチームゴールド埼玉
- ・ホンダカーズ姫路西網干店
- ・マイヤ アップルロード店
- ・マイヤ 高田店
- ・Me Project
- ・名城大学
- ・名鉄観光サービス労働組合
- ・モナミの会
- ・もりつね音楽事務局
- ・薬王堂 高田馬場前店
- ・薬王堂 高田米崎店
- ・ヤフー 株式会社

- ・ヤマザキ Yショップ高田広田店
- ・UAゼンセン
- ・有限会社 真山機械
- ・有限会社 吉野屋商会
- ・ユニリーバ・ジャパン・カスタマー  
マーケティング 株式会社
- ・夢の樹マルシェ
- ・LINEヤフー 株式会社
- ・陸前高田 発酵パーク CAMOCY
- ・陸前高田グローバルキャンパス
- ・陸前高田市小友地区  
コミュニティセンター
- ・陸前高田市コミュニティホール
- ・陸前高田市総合交流センター  
(夢アリーナたかた)
- ・陸前高田市 広田地区  
コミュニティセンター
- ・陸前高田市まちなか広場 交流施設  
「ほんまの家」
- ・陸前高田市民文化会館  
(奇跡の一本松ホール)
- ・陸前高田市役所
- ・陸前高田市米崎地区コミュニティ  
センター(自然環境活用センター)
- ・陸前高田市立小友小学校
- ・陸前高田市立気仙小学校
- ・陸前高田市立高田小学校
- ・陸前高田市立高田第一中学校
- ・陸前高田市立図書館
- ・陸前高田市立米崎小学校
- ・陸前高田地域振興 株式会社
- ・陸前高田まちづくり協働センター
- ・リコー社会貢献クラブ・FreeWill
- ・リバティタウン伊勢原管理組合  
「花の会」
- ・連合広島 広島地域協議会
- ・ローソン 陸前高田大隈店
- ・ロータス岩手 株式会社
- ・和太鼓 De-Da
- ・ワタミオーガニックランド 株式会社

※五十音順、敬称略。

※対象期間は第13期(2023/7/1～2024/6/30)になります。

※振込名称及び受領書宛名、参加団体名をもとに作成しています。

※法人名・団体名、アーティスト名などが対象です。個人名につきましては掲載を控えていただきます。

※ご寄附(協賛・自木・他)、ご参加(植樹会・草刈会)、講演関係、地域協力店(会場・配布物設置・募金箱設置)など

# 会計報告

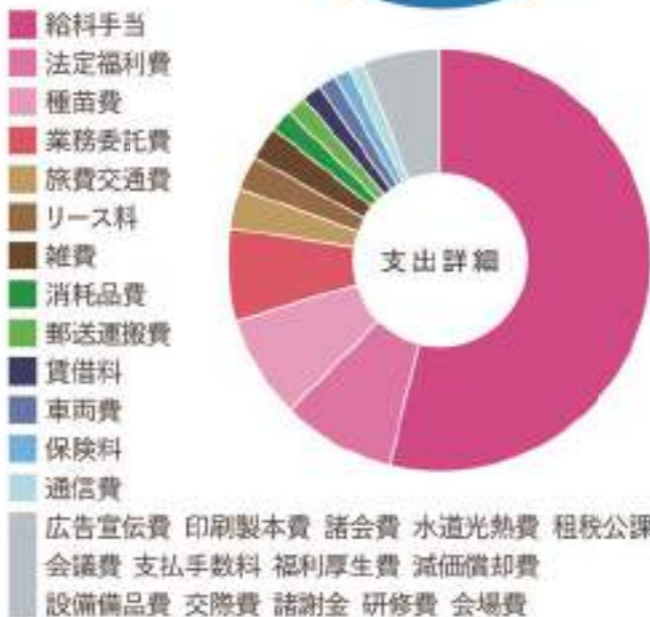
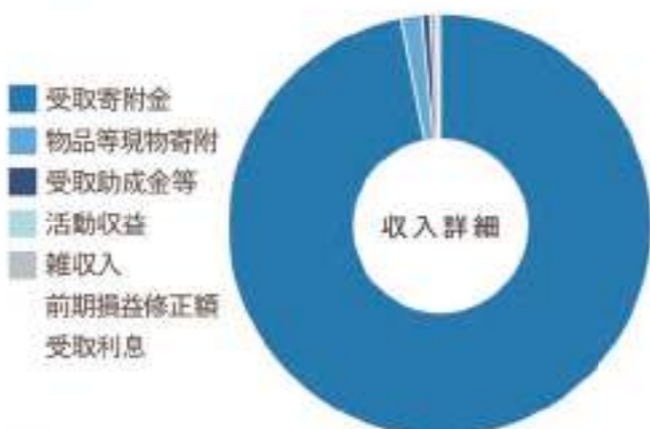
認定特定非営利活動法人桜ライン311 2023年度会計報告

【事業期間】2023年7月1日より2024年6月30日まで

総額	前期現金預金等繰越額	148,731,974
	当期収入総額	121,787,264
	当期支出総額	46,089,688
	当期正味財産増減額	75,697,576
	次期現金預金等繰越額	224,430,529

収入詳細	受取会費	0
	受取寄付金	118,202,376
	物品等現物寄付	1,875,476
	受取助成金等	679,000
	活動収益	645,004
	受取利息	428
	雑収入	304,980
	前期損益修正額	80,000
	合計	121,787,264

支出詳細	給料手当	24,804,659
	法定福利費	3,955,548
	福利厚生費	112,387
	広告宣伝費	511,500
	交際費	50,938
	会議費	221,025
	旅費交通費	1,403,477
	通信費	548,246
	消耗品費	784,425
	水道光熱費	294,604
	諸会費	427,424
	支払手数料	152,470
	車両費	646,023
	賃借料	675,338
	リース料	1,206,600
	保険料	549,780
	租税公課	233,892
	減価償却費	70,550
	雑費	1,200,426
	諸謝金	44,994
	郵送運搬費	699,000
	印刷製本費	474,343
	会場費	9,400
	種苗費	3,633,217
	設備備品費	65,000
	研修費	32,540
	業務委託費	3,281,882
	合計	46,089,688



### ※1 桜ライン311 活動基金

桜ライン311 各事業への将来利用を目的として、理事会にて積立 / 取崩し / 管理される基金です。尚、当基金は100%事業への使用となります。

※ 直近年度の詳細な事業報告等書類につきましては、桜ライン311の団体HPよりダウンロード可能となっております。ダウンロード可能な各書類は、「認定NPO法人等の情報公開」に基づき、「活動報告書、活動計算書、貸借対照表、財産目録、注記事業別経費の状況」の5点です。ご要望いただければこちらから印刷してお送りすること、過去の決算書のご提供も可能です。その際は事務局までご連絡ください。

### 桜ライン311 活動基金 ※1

前期繰越特定資産	123,036,235
受取利子	979
当期積立額	0
次期特定資産総額	123,037,214

# 組織概要

2024年6月末現在

正式名称	認定特定非営利活動法人 桜ライン311
代表理事	岡本 翔馬
設立	2011年10月16日
法人格取得	2012年 5月 1日
認定NPO法人取得	2014年 5月 1日 (更新2024年5月1日)

代表理事	岡本 翔馬
副代表理事	伊勢 友紀 (事務局スタッフ兼任) 中井 勝義
理事	松田 恵美子 東平 享浩 小川 光一
監事	石井 宏明 在間 文康
事務局長	佐々木 良麻 (2023年9月30日退職)
事務局スタッフ	佐々木 正也 矢作 彩子 佐藤 一男 太田 海 嶋村美和 齋藤浩之 水野昌司 細田聡 新沼貴史 長野守

### 役員

### 受賞歴

2012年  
一般財団法人日本ファッション協会  
日本クリエイション賞

2014年  
公益財団法人日本デザイン振興会  
GOOD DESIGN AWARD 2014 金賞

2015年  
一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会 第1回ジャパン・レジリエンス・アワード優秀賞

2016年  
公益財団法人ソロブチミスト日本財団  
社会ボランティア賞

2017年  
国土交通省手づくり郷土(ふるさと)賞  
一般部門グランプリ

公益財団法人日本さくらの会  
平成29年度さくら功労賞  
「東北みらい創りサマースクール」実行委員会 第6回東北みらい賞

2018年  
株式会社毎日新聞社  
第7回「地球未来賞」クボタ賞

吉野正芳復興大臣より感謝状 授与

2022年  
令和3年度「新しい東北」復興・創生の  
星顕彰

